

株式会社リクルートキャリアでは、2013年より毎年、全国の15歳～64歳の就業者約5,000名～10,000名を対象に、「働くことを通して、喜びを感じているのか？」を把握するためのアンケート調査を実施しています。本レポートでは、調査期間2020年12月23日～2020年12月28日の9,350名について、前年との比較を交えて新型コロナウイルス禍の特徴を考察いたしましたので、結果をご報告いたします。

【調査概要】

- 実施期間  
2020年度：2020年12月23日～2020年12月28日 / 2019年度：2019年12月12日～2019年12月17日
- 調査対象  
15歳～64歳の就業者 \*標本設計：全国の15歳～64歳の就業者を母集団とし、性×年代(10歳刻み)×就業形態(3区分)×居住エリア(4エリア)で母集団構成に合うように回収  
※母集団のデータソース：総務省統計局「労働力調査」(平成24年～平成30年)
- 回答数  
2020年度：9,350名 / 2019年度：5,467名
- 調査方式  
インターネット調査

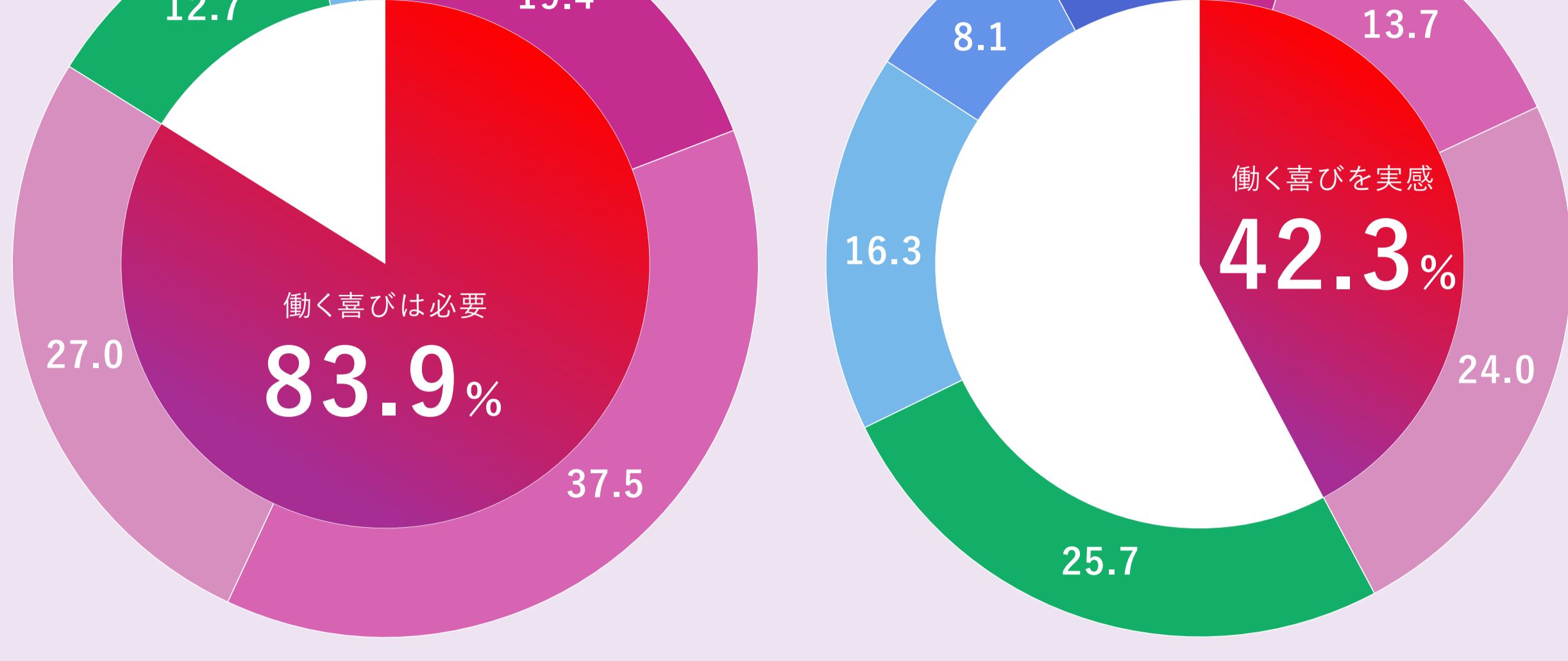
# 「働く喜び」を実感している人は42.3%で前年比-2.2pt 「飲食店・宿泊業」従事者の「働く喜び」は前年比-18.4pt

## 新型コロナウイルス禍の働く喜びの状況

### 1. 「仕事をする上で、働く喜びは必要である」と思っている人は83.9%。 新型コロナウイルス禍で、働く喜びを感じている人は42.3%

Q仕事をする上で、働く喜びは必要だと思いますか？ n=9,350(単一回答)  
\*「とても必要だと思う」「必要だと思う」「やや必要だと思う」の合計を「仕事をする上で、働く喜びは必要である」と思っている人の割合として集計

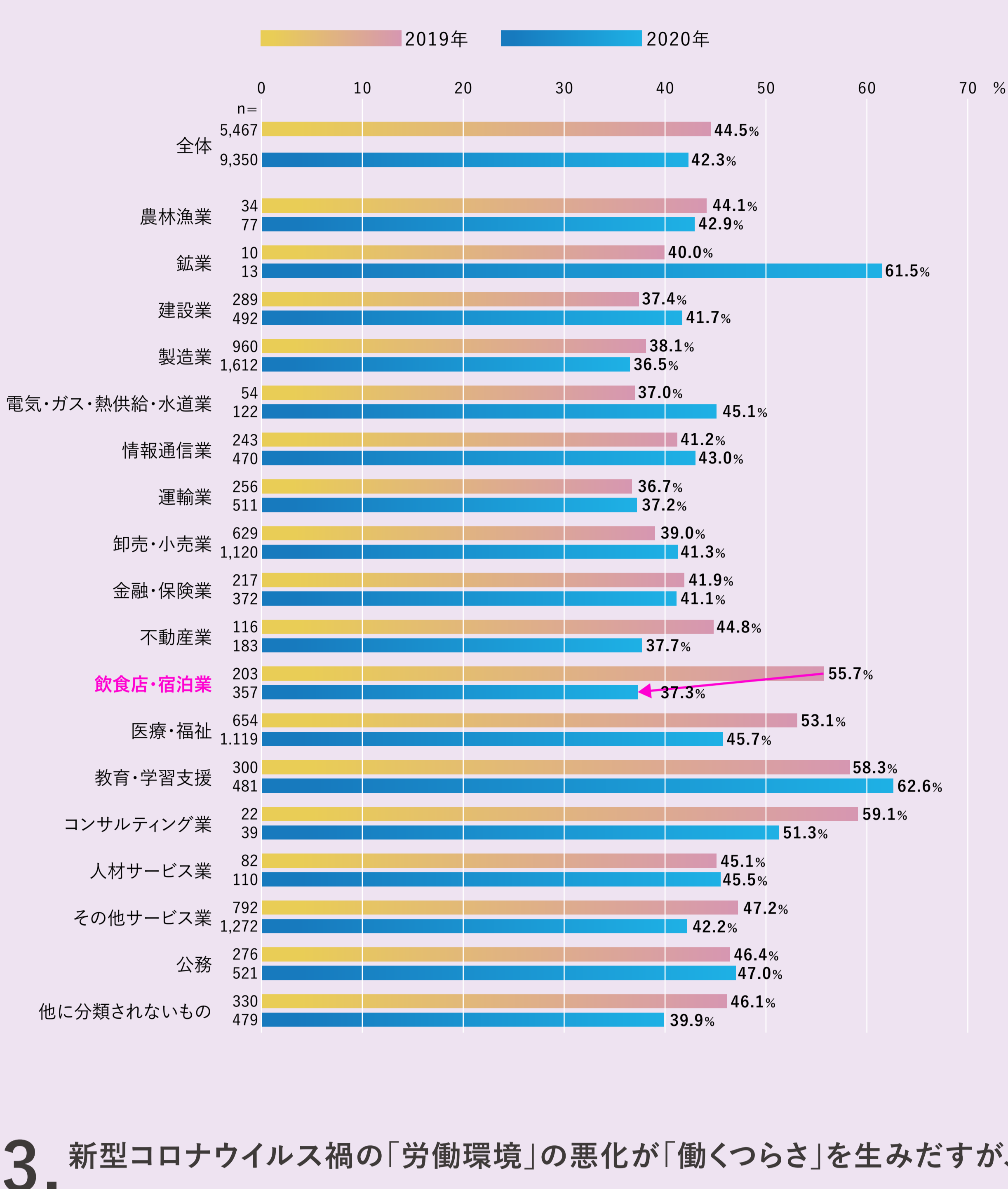
Qあなたは、この1年間、働くことに喜びを感じていましたか？ n=9,350(単一回答)  
\*「非常に感じている」「感じている」「やや感じている」の合計を「この1年間、働くことに喜びを感じていた」人の割合として集計



### 2. 「飲食店・宿泊業」従事者の働く喜びが前年比で大きく減少

2019年度の調査では、「この1年間、働くことに喜びを感じていた」人の割合は44.5%でしたが、新型コロナウイルス禍となった2020年度は42.3%で、-2.2ptの微減という結果でした。中でも「飲食店・宿泊業」従事者の働く喜びが前年比-18.4ptで大きく減少しています。

Qあなたは、この1年間、働くことに喜びを感じていましたか？ 2019年n=5,467, 2020年n=9,350 (単一回答)  
\*「非常に感じている」「感じている」「やや感じている」の合計を「この1年間、働くことに喜びを感じていた」人の割合として集計

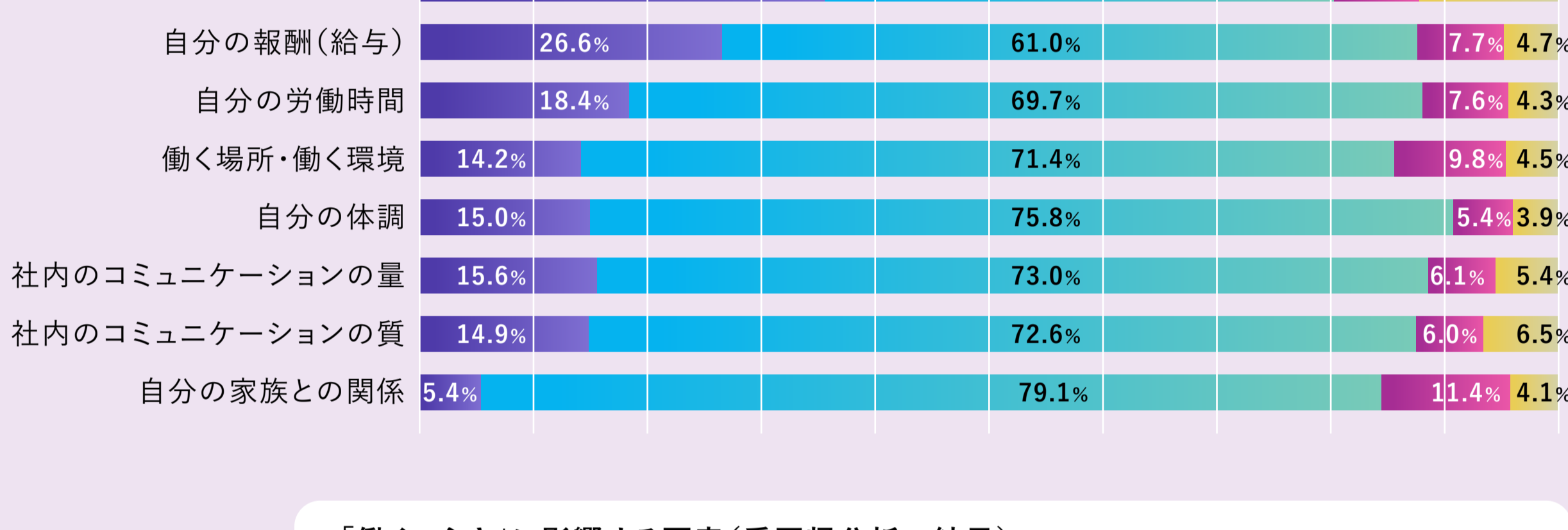


### 3. 新型コロナウイルス禍の「労働環境」の悪化が「働くつらさ」を生みだすが、「新型コロナウイルス禍の職場対応」によってつらさが緩和される

新型コロナウイルス禍の影響について、「勤務先の業績」が悪化したと感じている人は35.6%、「自分の報酬(給与)」が悪化したと感じている人は26.6%でしたが、このような「業績」や「コミュニケーション」の悪化による「働くつらさ」への影響はほとんど見られず、「労働環境」が悪化するほど「働くつらさ」の増加につながっています。ただし、「新型コロナウイルス禍の職場対応」に対する満足度が高かった場合には「労働環境」悪化による「働くつらさ」の増加が緩和されることが分かりました。

\* 業績：勤務先の業績、自分の報酬(給与)  
コミュニケーション：社内のコミュニケーションの量、社内のコミュニケーションの質  
労働環境：働く場所・働く環境、自分の労働時間、自分の体調、自分の家族との関係

Q新型コロナウイルス禍の影響についてどのように感じていますか？ n=9,350 (単一回答マトリクス)  
\* 8つの要素それぞれに対し、「悪化した」「変わらない」「良くなった」「分からない」の選択肢から回答



「働くつらさ」に影響する要素(重回帰分析の結果)

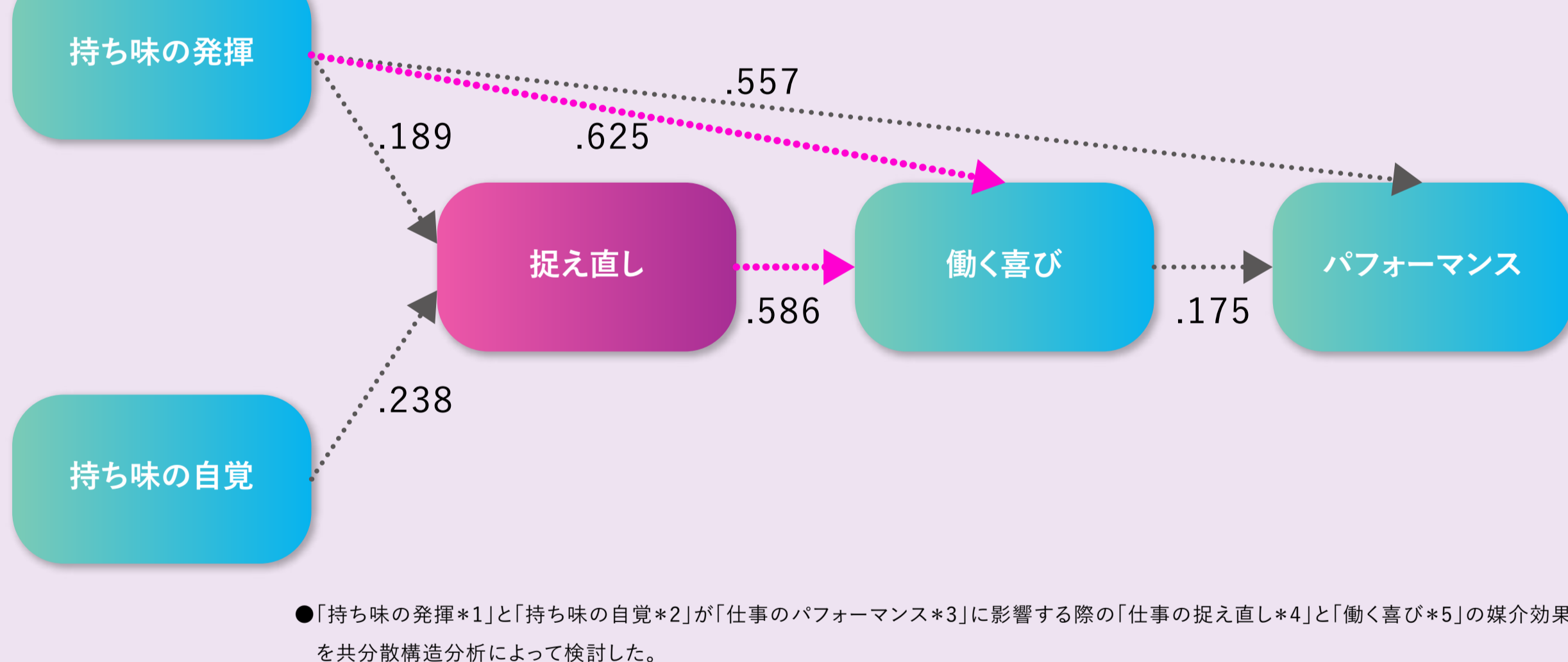
	B	β	p
コミュニケーション	-.066	-.042	.001***
業績	-.024	-.016	.219
労働環境	-.220	-.128	.000***
対応満足	-.306	-.195	.000***
コミュニケーション × 対応満足	-.004	-.003	.839
業績 × 対応満足	-.034	-.022	.094
労働環境 × 対応満足	.091	.058	.000***
R <sup>2</sup>		.096	.000***

- まず、新型コロナウイルス禍によってどのような影響があったのかについて誤ね、影響の種類を因子分析により分類した。その結果、「コミュニケーションの変化」、「業績の変化」、「労働環境の変化」の3つの影響の種類が導かれた。
- 次に、3つの影響の種類が「働くつらさ」にどの程度影響するのか、及び「新型コロナウイルス禍の職場対応」に対する満足度(対応満足)、「新型コロナウイルス禍による変化(コミュニケーション、業績、労働環境)」と「新型コロナウイルス禍の職場対応」に対する満足度(対応満足)ならびに交互作用項を説明変数として投入した。また、「労働環境による変化」と「新型コロナウイルス禍の職場対応に対する満足度(対応満足)」の交互作用が有意であったため、単純傾斜の検定を実施した。
- \*1 新型コロナウイルス禍の職場対応に対する満足度(対応満足)：Q新型コロナウイルス禍の職場の対応について、どのように感じていますか？(1「まったく満足していない」から5「とても満足している」までの5件法)
- \*2 働くつらさ：Qあなたは、この1年間、働くことにつらさを感じていましたか？(1「全く感じない」から7「非常に感じている」までの7件法)

●表中のB(標準化していない数値)とβ(標準化した数値)が「働くつらさ」への影響を表す数字となり、今回の結果では、「コミュニケーション」「労働環境」「対応満足」が統計的に有意で、それぞれの得点が高いほど、働くつらさが低くなることを示している。ただし、コミュニケーションの影響は小さい。「労働環境×対応満足」も統計的に有意な結果がみられるが、単純傾斜の検定という事後検定の結果から、労働環境が悪化したとしても、「対応満足」が高ければ、「働くつらさ」への影響が小さくなる事が明らかになった。

### 4. 新型コロナウイルス禍でも働く喜びを実感している人は、自分の持ち味を發揮し、仕事の意味や意義を自分で「捉え直す」ことができる

新型コロナウイルス禍でも自分の持ち味を發揮している人は、働く喜びを実感し成果を上げていることが分かりました。また、自分の持ち味を自覚する人は、仕事の意味や意義を自分で「捉え直し」することができ、結果として働く喜びを実感できています。



- 「持ち味の發揮\*1」と「持ち味の自覚\*2」が「仕事のパフォーマンス\*3」に影響する際の「仕事の捉え直し\*4」と「働く喜び\*5」の媒介効果を共分散構造分析によって検討した。
- \*1 持ち味の發揮：Qあなたは、現在の仕事の中で、自分ならではの持ち味を生かすことができていると思いますか？(1「そう思わない」から5「そう思う」までの5件法)
- \*2 持ち味の自覚：Qあなたは、仕事をする上で自分ならではの持ち味が何かを明確に意識していますか？(1「そう思わない」から5「そう思う」までの5件法)
- \*3 パフォーマンス：Q過去1年のあなたの仕事の出来は何かくらいになるでしょうか？(0「最悪の出来」から10「最高の出来」までの11件法)
- \*4 捉え直し：Q以下の考えや行動は、仕事をしているときにあなたにどれくらいあてはまりますか？(1「全くあてはまらない」から5「とてもあてはまる」までの5件法。以下3項目を1項目として分析に使用した)
  - ・自分の担当する仕事の目的が、より社会的に意義のあるものであると捉え直す
  - ・自分の担当する仕事を見直すことにより、やりがいのある仕事に見立てる
  - ・自分の担当する仕事を単なる作業の集まりではなく、全体として意味のあるものだと考える
- \*5 働く喜び：Qあなたは、この1年間、働くことに喜びを感じていましたか？(1「全く感じない」から7「非常に感じている」までの7件法)

### 5. 仕事や職場だけに閉じず、視界を広げたり、複数の自分の居場所を持っていたりする人が、働く喜びを感じている割合が高い

●「これまでにやったことがないことを試しにやってみる」人 n=2,802(62.1%の人が働く喜びを実感)  
●「仕事で困ったことがあった時に相談できる人が社外にもいる」人 n=3,109(61.4%の人が働く喜びを実感)  
●「仕事上、興味を持った人には、面識がなくても積極的に接点を持つようとしている」人 n=2,640(63.6%の人が働く喜びを実感)

●ワーキングマザー n=1,095(52.1%の人が働く喜びを実感)  
●副業兼業している人 n=1,303(50.0%の人が働く喜びを実感)

など、仕事や職場だけに閉じず視界を広げたり、複数の自分の居場所を持っている人が、働く喜びを感じている割合が高い(全体平均42.3%に対して、+8~20pt)ということが分かりました。

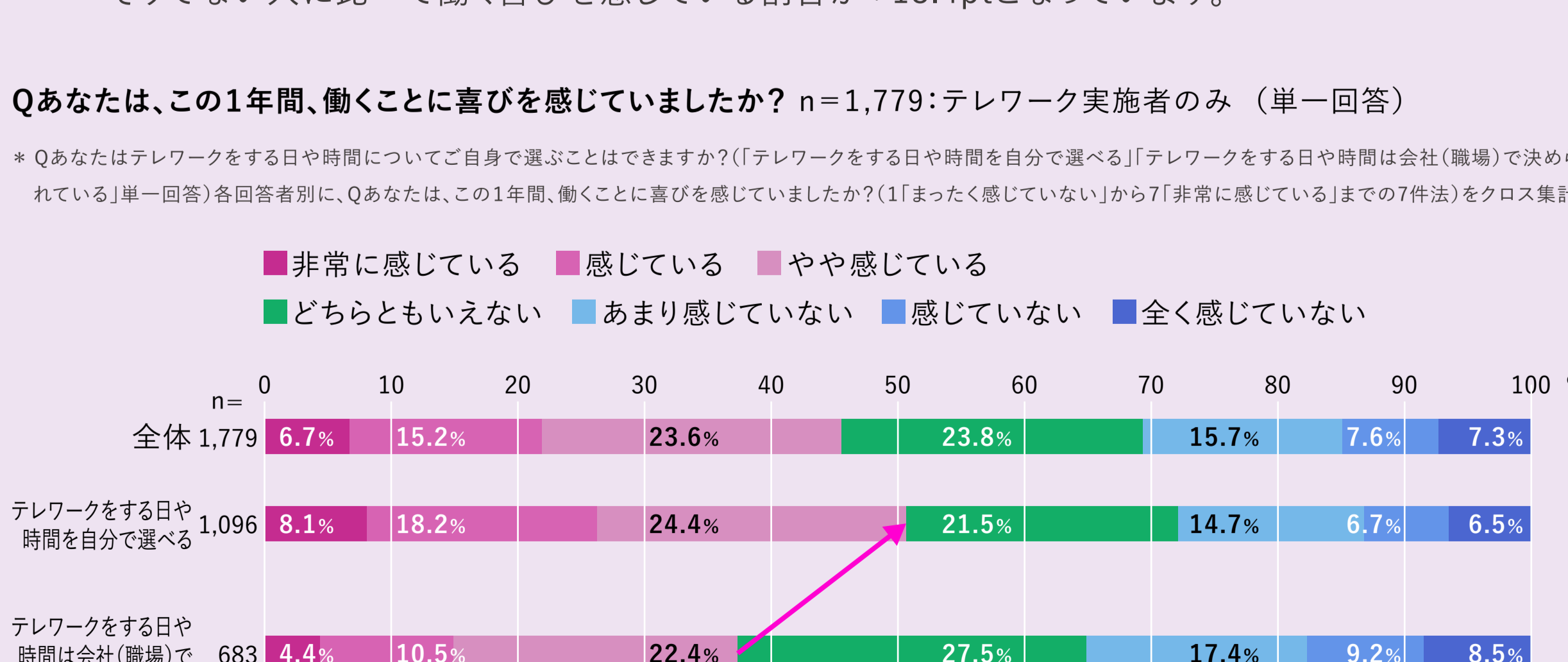
### 6. テレワーク環境下で働く喜びを実感している人は、特定のスキルを持ち、自分で働き方をコントロールできている

新型コロナウイルス禍で、テレワークを行う人も多くなっていますが、テレワークをしている人はそうでない人に比べて働く喜びを感じている割合が+5ptとなっています。(この1年間、働くことに喜びを感じていた)人の割合 テレワークをしている人45.5%；していない人40.5%)

中でもテレワークの日や時間を自分で選ぶことができる人のほうが、そうでない人に比べて働く喜びを感じている割合が+13.4ptとなっています。

Qあなたは、この1年間、働くことに喜びを感じていましたか？ n=1,779：テレワーク実施者のみ (単一回答)

\* Qあなたは、この1年間、働くことに喜びを感じていましたか？(テレワークをする日や時間を自分で選ぶ)「テレワークをする日や時間は会社(職場)で決められている」単一回答)各回答者別に、Qあなたは、この1年間、働くことに喜びを感じていましたか？(1「全く感じない」から7「非常に感じている」までの7件法)をクロス集計



※ここでのテレワークとは、リモートワークも含む。尚、設問ではリモートワーク/テレワークと記載している

また、「人との関わりが少ない環境でも働けるかどうか」といった個人の志向ではなく、「文字によるコミュニケーションが得意」「信頼関係を築ける」「自律的な行動ができる」という力が備わっている人のほうが、テレワーク環境下で働く喜びを感じやすいことが分かりました。

Q以下それぞれの内容に対して、あなたに最も近いものを選んでください (単一回答マトリクス)

\* テレワーク実施者のうち「働く喜び」を感じている人と「働く喜び」を感じていない人別に、4つの要素それぞれに対する「そう思う」「ややそう思う」計を集計(1「そう思わない」から5「そう思う」までの5件法)

